

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム かがやき (1F)	評価実施年月日	平成19年11月16日
評価実施構成員氏名	関・村瀬・柴田・後藤・須田・鎌田		
記録者氏名	村瀬	記録年月日	平成20年3月13日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>毎朝の申し送りの中で職員間で確認する。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>運営推進会議を開いているので、事業所の理念を話し、地域の人々に理解してもらおうようにする。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>ホームでの避難訓練も行っているため、一緒に近隣の方への参加を呼びかけたり、町内でやっている敬老会やゴミ拾いにもできる限り参加したい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>運営推進会議の中で町内で認知症で困っている方や介護で困っている人がいれば、いつでも相談に乗れること会議の中で話している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今後のことも踏まえ、勉強する機会を設けたい。また、研修会にも参加しているので、報告会を設けて、職員に浸透させたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望や不安、苦情があった場合には、ただちに対策を検討して、改善するようにしている。また、利用契約書・重要事項説明書やホーム内の掲示板に担当者や外部の相談窓口を明記し、口頭で説明している。又、玄関前に苦情箱を置き、そこに紙とペンを用意して、投函してもらえるようにしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時に入居者の近況を伝え、毎月の利用料金と一緒に日頃の様子や行事等の案内などのお手紙を出しています。また、状態変化や早急に相談したいことについては、その都度、連絡しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の訪問時には職員が積極的に話し掛けて意見や不満、苦情などを聞き、その都度、職員同士で話し合い改善している。また、玄関前に苦情箱を置き、そこに紙とペンを用意して、投函してもらえるようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は職員の意見や提案を話しやすい雰囲気を作り、毎月のミーティングや朝・夕の申し送りで、職員の意見を聞く機会を設けている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度、状況に応じて勤務調整や時間の調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員とできる限り要望が聞けるように話し合いを設けている。また、離職者が出た場合は、速やかに職員を補充し、なるべく利用者・職員に負担にならないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部での研修会にも積極的に参加し、研修会で受けた内容については、ミーティングや朝・夕の申し送りで報告をしている。</p>	<p>近日中に新人研修を開催する予定です。また、今後も職員の人材育成の為、今後も継続して研修を実施していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>さまざまな研修会に参加し、研修会に参加した同業者と話しをすることで情報を共有しながらサービスの向上につなげている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、管理者や職員のストレスが軽減できるようにできる限り、休憩ができるように休憩場所を作ったり、親睦会などを開いている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、管理者や職員の勤務態度や勤務状況を把握できるように、いつでも話ができるように職員と話す機会を持ちながら、改善点や問題点を把握している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご自宅に訪問して、本人が困っていることや不安なことなど良く話を聞き、入居後もホームでの生活に馴染めるよう配慮している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用に至るまで、家族から困っていることや求めていることなど良く話を聞き、実際にホームの見学もしてもらい、できるだけ不安要素がなくなるよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談、面接を受けた話の内容によって、本人、家族が必要としていることを見極めて、相談、助言に努めている。また、必要に応じて他のサービスの説明や紹介をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、本人にホームの見学をして頂き、納得して入居してもらえるように働きかけている。そして、安心して入居できるように今まで使われていた生活家具や装飾品などを持ってくることによって、馴染みの雰囲気を作ることができ、安心感を持ってもらう。また、状況に応じていきなり入居するのではなく、体験入居の対応もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、入居者の得意とすることや苦手な部分を把握しながら、なるべく本人の能力を引き出せるように日頃から接している。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会や行事への参加などを通して、家族に近況を伝えたり、本人が困っていることなどを話し、家族と一緒に考えながら、本人らしく生活できるように配慮している。又、外出、外泊・通院介助等においてもご家族の協力を得ている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族の話を良く話を聞きながら、面会、行事などをきっかけにより良い関係になれるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や面会・外出など気軽に出来るように職員が付き添ったり、送迎したりして、声を掛けてもらうようにしている。また、希望に応じて馴染みの洋品店などにも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日中はほとんどりビングに出ていることが多い。しかし、入居者の中には居室で過ごす人もいるので、随時、居室に訪室して、体操などの声掛けやなるべく居室から出るように促している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族と十分に話し合い、医療機関への入院、施設入所などをされた後もその後の生活に支障が生じないよう関係機関や家族との情報交換や協力をするように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見や要望を大切にし、本人の思いに近づけるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談から入居に至るまで本人や家族からよく話を聞き、これまでの生活歴、生活環境、サービス利用の経過の把握に努めている。また、入居後も本人の様子を見ながら聞き取りをするようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者1人ひとりの一日の過ごし方や身体状況の変化、異常のサインを早期に発見できるよう、すべての職員が注意しており、個別のケース記録に記載され、現状を総合的に把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の現在の状態、生活歴、求めていること、家族が望んでいることを把握し、アセスメントによって課題を明らかにして、職員が気付いたことや意見を取り入れながら、介護計画を作成するよう努めている。		ケアプランがより現状に即したものになるようにモニタリングの充実を図り、ケアプランと連動しやすくなるようにケアプランの様式を変更した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は期間に応じてモニタリングをして見直しをしている。また、急激な変化があった場合は、随時、現状に即した新たな計画を作成している。		モニタリング時には、受け持ちスタッフにも加わってもらいながら、計画を立てることでよりよいものになるように取り組んでいる。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別のケース記録に記入し、情報を共有しながら実践やプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	馴染みの美容室への送迎や通院への支援、本人の希望に応じて自宅への送迎など、その時々々の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署に避難訓練を依頼したり、福祉施設や医療機関等に協力・連携が取れるように働きかけている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人、家族の意向、または、アセスメントによって、他のケアマネやサービス事業所と連携をとっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター開催の研修会に参加したり、入居相談などにも応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	それぞれの入居者が、かかりつけ医を確保していて、定期受診及び緊急時に相談できる体制をとっている。また、看護師を配備し日常業務の中で健康管理や相談・助言などを行うと共に、不在時は電話連絡を取れるようにし、また近所の医療機関との協力体制を結ぶなど、24時間の医療連携体制をとっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の状態により、必要な医療を受けられる医療機関への受診ができるよう支援し、また、認知症に詳しい医師との関係を築きながら、職員が相談したり入居者が治療を受けられるように取り組んでいる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を配置し、日常業務の中で健康管理や異常の早期発見に努め、入居者や職員が気軽に相談できるなど、医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の受診には必ず職員が付き添っている為、入院前から病院関係者との情報交換に努めている。入院中もなるべく職員が訪問し、情報交換や相談の機会を作っている。また、医療相談員を配置している病院について、必要に応じ情報交換や相談などを行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者の状況の変化に応じ、より早い段階から先を見据えた介護を提供する為に、本人や家族、かかりつけ医等と話し合う機会を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族とより良く暮らせる為に、自分たちの力量も見極めながら、かかりつけ医と共に支援できるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居者本人やご家族から知りえた情報や、移り住むまでの入居者に関する詳しい状態・治療状況やケアの内容など、入居者がスムーズに次の場所で生活ができるよう、必要なことを最低限にまとめた情報提供書を作成して説明し、住み替えによるダメージが起きないように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>基本的にプライバシーを損ねるような言葉かけや対応などはせずに、入居者の意向をできる限り尊重するようにしている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員の意見を押し付けたりせず、その人の思いや希望が表せるようにしている。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その時の状況にもよるが、できる限り入居者の希望は受け入れ、実現できるよう努力している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容の利用や、なじみの店を希望される方はそちらに行っている。 “リハビリメイク” と称して、職員が支援・介助を行っている入居者もいる。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>“もやしのひげ取り” など簡単な調理の下準備や、お膳・食器拭き、テーブル拭き、下膳、おしぼりたたみなど、入居者の状態を見極めながら行ってもらっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、タバコについては、喫煙される方がいない。お酒については、年に数回行事の際に飲める機会を提供している。また、飲み物は10時と15時に好みの物をうかがい提供している。おやつは、15時に飲み物と一緒におやつを食べる他に好みの物をうかがい週1回買物代行をしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その入居者に合うと考えられる排泄方法をいくつか試し、一番気持ちよく排泄して頂けるパターンや方法を見つけ、実践している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が付き添う通院介助が頻繁にあり、入浴介助にもスタッフが必要な為、入居者個々の希望通りに曜日や時間帯を選んで頂くことは極めて困難な状態にある。しかしながら、入浴そのものについては、気持ちよく入って頂けるような言葉かけや支援を行い、普段あまり口にされないようなお話がホロリと出るようなコミュニケーションを図れるよう努力している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の入居者の生活習慣を尊重しながら、強制せずゆっくりと過ごして頂けるような雰囲気作りに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行事を通じて買い物などを計画したり、月に1回着物の生地を使った手芸のボランティアさんに協力して頂いている。また、それぞれの洗濯物をかごに入れたたんでもらったり、洗濯をするなどできる人はお願いしている。		また、個々の趣味活動(編み物、塗り絵など)ができるよう支援したり、提供できる機会を増やせるよう取り組んでいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に応じてご家族と相談し、それぞれが所持している。また、お金を所持しようという意思を持たれない方は、必要に応じて立替払いにて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	徘徊の多い利用者が近所を歩かれる際は安全に歩けるよう見守り、支援している。また、「手紙を出しに行きたい」、「買い物に行きたい」等々、職員の状況の許す限り、要望に応えられるよう努力している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事を作成し、動物園見学やお花見などの野外レクリエーション、デパートやスーパーマーケット等への買い物ツアー、また食事を目的としたグルメツアー等を企画し、行事によってご家族にも参加して頂く機会を作っている。また、近所への散歩等にも職員が付き添っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者が自分で電話をかけた、手紙のやり取りができるよう援助している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族等の面会は定期的であり、入居者一人ひとりが大切な人と触れ合ったり、交流する機会を持ちながら暮らしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安らかで快適なケア、また、心のこもった介護ができるよう努めている。身体拘束廃止委員会を発足し、身体拘束防止に関する研修会にも参加している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝6時から夜9時までは鍵をかけずに、入居者が自由に出入り出来るようにしている。外出傾向を把握し見守るなどの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員はプライバシーに十分配慮しながらも、安全第一に考え、昼夜を問わず利用者の所在地や様子を把握している。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>縫い針、はさみ、ナイフ、爪きりなど、普段は管理をし、必要時には職員が見守りの上、使用している。安全にはくれぐれも注意を払っている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒防止や嚥下能力に合わせた食事の支援、誤薬防止の為の配薬の工夫や管理、火気を居室に持ち込まないように協力を頂き、入居者の状態に応じた支援を行っている。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>年に1～2回、消防署の職員の方にお越し頂き、講習と訓練をして頂き、すべての職員が1回以上参加できるようにしている。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>防火管理者の資格を持つ職員がおり、その職員が中心となり、日ごろから万一の時に備え、避難マニュアル等を作成し全職員に周知できるようにしている。また、近所の住民にも協力を得られるような関係ができています。</p>		<p>関連施設が隣接しており、今後、協力体制がスムーズに取れるようにしていきたい。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>認知症の進行やADLの変化に伴い、入居者にこれから起こりうる変化や可能性について段階を経て、状態に合わせて説明を行い、入居者の状態を出来る限り受け入れて頂けるよう支援している。また、職員がどのように支援していくか、あるいはご家族にどのように協力をして頂くかについても同時に話し合いを持ち、対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルサインのチェックを行い、一人ひとりの体調の変化や異変の発見には職員全員が注意をしている。また、異変に気づいた時には看護師に報告し、速やかに対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は各入居者の薬の内容・目的・用法について理解し管理している。服用の際には入居者に直接手渡しをし、確実に服用して頂くための支援を行っている。また、薬の内容が変更された際は、その都度、引き継ぎし、職員全員に周知徹底している。		薬の副作用については、一部のものについてしか注意を払っておらず、他の薬に関しても今後注意力を持って観察できるようにしていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は、入居者に及ぼされる便秘による影響を理解し、排便の有無や状態の確認に努めている。便通を整えるために、水分や食事の摂取量の把握を行い、便通が悪い時には個々の入居者の主治医に相談し、指示をもらっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日、起床時と就寝前には必ず口腔ケアを行って頂けるよう、各入居者の状態に応じて支援している。また、口腔内の状況によっては訪問歯科を活用し、必要に応じて治療や指導を受けられるようにしている。		すべての利用者が、毎食後に口腔ケアを行えている状況ではないので、口腔ケアの必要性を理解して頂きながら援助を行う必要がある。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量をチェックし、毎回記録している。10:00、15:00にも水分補給をし、入居者の状況に応じて牛乳やお茶など、好みの飲み物を提供している。また、アレルギー等で食べられないメニューに対しては代替メニューの提供をしたり、嚥下や摂取状況により細かく刻んだりミキサーにするなど、食事形態を工夫している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する研修会に参加し、全職員に周知徹底している。普段から、外出後には職員・入居者共に、必ず手洗いと紅茶によるうがいを慣行。また、漂白剤を薄めた水で手すりやトイレの拭き掃除を行い、予防に努めている。また、室内に湿度・温度計を設置し、冬期間は加湿器を使用したりぬれタオルを活用し、換気するなど、快適な湿度と温度を保つように努めている。また、年1回結核検診を受け、インフルエンザについても職員、入居者共に予防接種を受けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所はいつも清潔に使用できるようにし、汚れた場合は速やかに清掃しながら使用している。まな板や布巾など特に汚れの付きやすいものは漂白して使用している。また、新鮮な食材を提供できるよう、必要により冷蔵・冷凍し管理している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前の庭には花などを植え、鳥のえさ箱を設置し、小鳥がよく訪れている。また、ウサギを飼育しており、ベランダに設置している小屋には時折近隣の方や学校の行き帰りに通る子供たちでにぎわうことが時折みられる。庭にはベンチを設け、入居者もうさぎや花を見に訪れている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>建物は採光などに配慮した造りとなっている。また、要所要所に季節感を感じさせる為の飾りつけや、カレンダー・日めくり・時計をつけたり、植物などを置き、各共有の空間には入居者が使いやすいような工夫を行っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ダイニングに続いてソファで仕切ったりリビングや、ダイニングを戸で仕切った向こう側の階段前に椅子を置いている。また、喫煙場所も別にしており、その時々用途やシチュエーションに合わせて使い分けている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には出来る限りご本人にとってなじみの使い慣れているものを持ち込んでいただくようお願いしている。また、それが出来る限り利用できるよう、支援している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>室内に湿度・温度計を設置し、冬期間は加湿器を使用したり換気するなど、快適な湿度と温度を保つように努めている。また、定期的な換気口の掃除や加湿器の清掃を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 利用者が毎日元気で生きがいを感じながら生活をしていただくため、職員は三部門の委員会を作り、必ずどこかに所属しています。行事委員会では、季節の行事や誕生日会、買い物ツアー等の毎回、嗜好を凝らした内容の行事の企画を担当しています。リハビリ委員会では、様々な体操の企画をし、職員へ指導を行ったり、レクリエーションで毎日唄う歌の選曲や歌詞カード作り等を担当しています。新聞委員会では、利用者の生活の様子や行事の様子、職員の情報などを記事にして、ご家族のもとへ定期的に届けています。また、常に職員間で話し合いを持ち、チームワークを大切に介護に取り組んでいます。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム かがやき (2F)	評価実施年月日	平成19年11月15日
評価実施構成員氏名	関 ・ 柴田 ・ 笹原 ・ 中野 ・ 高橋		
記録者氏名	笹原	記録年月日	平成20年3月13日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念として「素直な気持ち」、「謙虚な気持ち」、「感謝の気持ち」、「地域共生の気持ち」と4つの理念を掲げ、各階の事務所や掲示板などに掲示している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の業務の中で運営理念を心がけながらケアしているが、業務の忙しさもあり忘れてしまうこともあるので、その都度振り返って思い出すようにしている。</p>	<p>毎朝の申し送りの中で職員間で確認する。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族に対しては入居時に利用契約書や重要事項説明書で説明しており、ホーム内の掲示板にも掲示しているが、地域の方にお話をする機会はなかなか持っていない。</p>	<p>運営推進会議を開いているので、事業所の理念をお話し、地域の方々にも理解してもらうようにする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>玄関周辺に花を植えたり、動物(うさぎ)を飼ったりして気軽に立ち寄れる様な雰囲気作りをしている。また、毎年実施している夏祭りをきっかけに地域人たちと交流をもち、入居者と散歩していると気軽に声をかけてくれたり、挨拶をしたりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会にも入り、町内でやっている行事にも可能であれば参加して、交流を持つようにしている。</p>	<p>ホームでの避難訓練も行っているため、一緒に近隣の方への参加を呼びかけたり、町内で実施されている敬老会やゴミ拾いにもできる限り参加したい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の中で町内で認知症で困っている方や介護で困っている人がいれば、いつでも相談に乗れること会議の中で話している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価により、改善点が明確になり、今後の課題にもつながっている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議については、2ヶ月に1回開催し、構成メンバーとして、家族、町内会長、婦人部長、民生委員、社協職員、ホーム長、管理者で集まり、セーフティーマネジメントや地域交流などテーマを決めて話し合い、助言など頂きながらサービスの向上につなげている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村の主催している研修会や講習会などに積極的に参加して、情報収集しながらサービスの向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の研修会などに参加しているが、現在、入居者がこの制度を使っている人がいないのもあり、あまり詳しい話し合いをしていない。		今後のことも踏まえ、勉強する機会を設けたい。また、研修会にも参加しているので、報告会を設けて、職員に浸透させたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待についての研修会にも参加し、常に申し送りやミーティングで入居者の対応についての話し合いをして、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書・重要事項説明書を説明し、利用者やご家族に不安や疑問がないか聞きながら、それに対しても説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望や不安、苦情があった場合には、ただちに対策を検討して、改善するようにしている。また、利用契約書・重要事項説明書やホーム内の掲示板に担当者や外部の相談窓口を明記し、口頭で説明している。又、玄関前に苦情箱を置き、そこに紙とペンを用意して、投函してもらえるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時に入居者の近況を伝え、毎月の利用料金と一緒に日頃の様子や行事等の案内などのお手紙を出しています。また、状態変化や早急に相談したいことについては、その都度、連絡している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の訪問時には職員が積極的に話し掛けて意見や不満、苦情などを聞き、その都度、職員同士で話し合い改善している。また、玄関前に苦情箱を置き、そこに紙とペンを用意して、投函してもらえるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は職員の意見や提案を話しやすい雰囲気を作り、毎月のミーティングや朝・夕の申し送りで、職員の意見を聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その都度、状況に応じて勤務調整や時間の調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員とできる限り要望が聞けるように話し合いを設けている。また、離職者が出た場合は、速やかに職員を補充し、なるべく利用者・職員に負担にならないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部での研修会にも積極的に参加し、研修会で受けた内容については、ミーティングや朝・夕の申し送りで報告をしている。</p>	<p>近日中に新人研修を開催する予定を立てている。また、今後も職員の人材育成の為、今後も継続して研修を実施していきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>さまざまな研修会に参加し、研修会に参加した同業者と話しをすることで情報を共有しながらサービスの向上につなげている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者は、管理者や職員のストレスが軽減できるようにできる限り、休憩ができるように休憩場所を作ったり、親睦会などを開いている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、管理者や職員の勤務態度や勤務状況を把握できるように、いつでも話ができるように職員と話す機会を持ちながら、改善点や問題点を把握している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にご自宅に訪問して、本人が困っていることや不安なことなど良く話を聞き、入居後もホームでの生活に馴染めるよう配慮している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用に至るまで、家族から困っていることや求めていることなど良く話を聞き、実際にホームの見学もしてもらい、できるだけ不安要素がなくなるよう配慮している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談、面接を受けた話の内容によって、本人、家族が必要としていることを見極めて、相談、助言に努めている。また、必要に応じて他のサービスの説明や紹介をしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、本人にホームの見学をして頂き、納得して入居してもらえるように働きかけている。そして、安心して入居できるように今まで使われていた生活家具や装飾品などを持っていくことによって、馴染みの雰囲気を作ることができ、安心感を持ってもらう。また、状況に応じていきなり入居するのではなく、体験入居の対応もしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、入居者の得意とすることや苦手な部分を把握しながら、なるべく本人の能力を引き出せるように日頃から接している。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会や行事への参加などを通して、家族に近況を伝えたり、本人が困っていることなどを話し、家族と一緒に考えながら、本人らしく生活できるように配慮している。又、外出、外泊・通院介助等においてもご家族の協力を得ている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>本人、家族の話を良く話を聞きながら、面会、行事などをきっかけにより良い関係になれるように支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>電話や面会・外出など気軽に出来るように職員が付き添ったり、送迎したりして、声を掛けてもらうようにしている。また、希望に応じて馴染みの洋品店などにも行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日中はほとんどリビングに出ていることが多い。しかし、入居者の中には居室で過ごす人もいますので、随時、居室に訪室して、体操などの声掛けやなるべく居室から出るように促している。		趣味活動を取り入れ、有意義な時間を過ごせるよう支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族と十分に話し合い、医療機関への入院、施設入所などをされた後もその後の生活に支障が生じないよう関係機関や家族との情報交換や協力をするように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見や要望を大切に、本人の思いに近づけるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談から入居に至るまで本人や家族からよく話を聞き、これまでの生活歴、生活環境、サービス利用の経過の把握に努めている。また、入居後も本人の様子を見ながら聞き取りをするようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者1人ひとりの一日の過ごし方や身体状況の変化、異常のサインを早期に発見できるよう、すべての職員が注意しており、個別のケース記録に記載され、現状を総合的に把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の現在の状態、生活歴、求めていること、家族が望んでいることを把握し、アセスメントによって課題を明らかにして、職員が気付いたことや意見を取り入れながら、介護計画を作成するよう努めている。		ケアプランがより現状に即したものになるようにモニタリングの充実を図り、ケアプランと連動しやすくなるようにケアプランの様式を変更した。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は期間に応じてモニタリングをして見直しをしている。また、急激な変化があった場合は、随時、現状に即した新たな計画を作成している。		モニタリング時には、受け持ちスタッフにも加わってもらいながら、計画を立てることでよりよいものになるように取り組んでいる。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別のケース記録に記入し、情報を共有しながら実践やプランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	馴染みの美容室への送迎や通院への支援、本人の希望に応じて自宅への送迎など、その時々々の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署に避難訓練を依頼したり、福祉施設や医療機関等に協力・連携が取れるように働きかけている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人、家族の意向、または、アセスメントによって、他のケアマネやサービス事業所と連携をとっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センター開催の研修会に参加したり、入居相談などにも応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	それぞれの入居者が、かかりつけ医を確保して、定期受診及び緊急時に相談できる体制をとっている。 また、看護師を配備し日常業務の中で健康管理や相談・助言などを行うと共に、不在時は電話連絡を取れるようにし、また近所の医療機関との協力体制を結ぶなど、24時間の医療連携体制をとっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の状態により、必要な医療を受けられる医療機関への受診ができるよう支援し、また、認知症に詳しい医師との関係を築きながら、職員が相談したり入居者が治療を受けられるよう取り組んでいる。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を配置し、日常業務の中で健康管理や異常の早期発見に努め、入居者や職員が気軽に相談できるなど、医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者の受診には必ず職員が付き添っている為、入院前から病院関係者との情報交換に努めている。入院中もなるべく職員が訪問し、情報交換や相談の機会を作っている。また、医療相談員を配置している病院について、必要に応じ情報交換や相談などを行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者の状況の変化に応じ、より早い段階から先を見据えた介護を提供する為に、本人や家族、かかりつけ医等と話し合う機会を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族とより良く暮らせる為に、自分たちの力量も見極めながら、かかりつけ医と共に支援できるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居者本人やご家族から知りえた情報や、移り住むまでの入居者に関する詳しい状態・治療状況やケアの内容など、入居者がスムーズに次の場所で生活ができるよう、必要なことを最低限にまとめた情報提供書を作成して説明し、住み替えによるダメージが起きないように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	基本的にプライバシーを損ねるような言葉かけや対応などはせずに、入居者の意向をできる限り尊重するようにしている。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員の意見を押し付けたりせず、その人の思いや希望が表せるようにしている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時の状況にもよるが、できる限り入居者の希望は受け入れ、実現できるよう努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容の利用や、なじみの店を希望される方はそちらに行っている。 “リハビリメイク” と称して、職員が支援・介助を行っている入居者もいる。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	“もやしのひげ取り” など簡単な調理の下準備や、お膳・食器拭き、テーブル拭き、下善、おしぼりたたみなど、入居者の状態を見極めながら行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は、10:00と15:00に好みのものを伺い提供している。おやつも好みの物を伺い週1回買い物代行している。タバコについては、所定の喫煙場所を設けてご自由に喫煙していただいている。お酒については、晩酌を習慣にされていた入居者に対して、医師からの助言をもとに毎晩決まった量を提供している方がいる。また、他の利用者についても、年に数回行事の際に飲める機会を提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その入居者に合うと考えられる排泄方法をいくつか試し、一番気持ちよく排泄して頂けるパターンや方法を見つけ、実践している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員が付き添う通院介助が頻繁にあり、入浴介助にもスタッフが必要な為、入居者個々の希望通りに曜日や時間帯を選んで頂くことは極めて困難な状態にある。しかしながら、入浴そのものについては、気持ちよく入って頂けるような言葉かけや支援を行い、普段あまり口にされないようなお話がホロリと出るようなコミュニケーションを図れるよう努力している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の入居者の生活習慣を尊重しながら、強制せずゆっくりと過ごして頂けるような雰囲気作りに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	行事を通じて買い物などを計画したり、月に1回着物の生地を使った手芸のボランティアさんに協力して頂き、入居者の楽しみや気晴らしが出来る機会を提供している。また、掃除や洗濯、お供えの花の世話など、個々の力に合わせてできるよう、支援している。		個々の趣味活動(編み物、塗り絵など)ができるよう支援したり、提供できる機会を増やせるよう取り組んでいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に応じてご家族と相談し、それぞれが所持している。また、お金を所持しようという意思を持たれない方は、必要に応じて立替払いにて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	徘徊の多い利用者が近所を歩かれる際は安全に歩けるよう見守り、支援している。また、「手紙を出しに行きたい」、「買い物に行きたい」等々、職員の状況の許す限り、要望に応えられるよう努力している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事を作成し、動物園見学やお花見などの野外レクリエーション、デパートやスーパーマーケット等への買い物ツアー、また食事を目的としたグルメツアー等を企画し、行事によってご家族にも参加して頂く機会を作っている。また、近所への散歩等にも職員が付き添っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が自分で電話をかけたり、手紙のやり取りが出来るよう援助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族等の面会は定期的であり、入居者一人ひとりが大切な人と触れ合ったり交流する機会を持ちながら暮らしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安らかで快適なケア、心のこもった介護が実践できるように努めている。身体拘束廃止委員会を発足し、身体拘束防止に関する研修会にも参加している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	朝6時から夜9時までは鍵をかけずに、入居者が自由に出入り出来るようにしている。外出傾向を把握し見守るなどの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員はプライバシーに十分配慮しながらも、安全第一に考え、昼夜を問わず利用者の所在地や様子を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	火気は一括で保管し、居室に持ち込まないようにお願いしているが、果物ナイフやかみそり等は入居者の状態に応じて居室内でも利用して頂いている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止や嚥下能力に合わせた食事の支援、誤薬防止の為の配薬の工夫や管理、火気を居室に持ち込まないように協力を頂き、入居者の状態に応じた支援を行っている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年に1～2回、消防署の職員の方にお越し頂き、講習と訓練をして頂き、すべての職員が1回以上参加できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者の資格を持つ職員がおり、その職員が中心となり、日ごろから万一の時に備え、避難マニュアル等を作成し全職員に周知できるようにしている。また、近所の住民にも協力を得られるような関係ができています。		関連施設が隣接しており、今後協力体制がスムーズに取れるよう強化していきたい。
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	認知症の進行やADLの変化に伴い、入居者にこれから起こりうる変化や可能性について段階を経て、状態に合わせて説明を行い、入居者の状態を出来る限り受け入れて頂けるよう支援している。また、職員がどのように支援していくか、あるいはご家族にどのように協力をして頂くかについても同時に話し合いを持ち、対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタルサインのチェックを行い、一人ひとりの体調の変化や異変の発見には職員全員が注意をしている。また、異変に気づいた時には看護師に報告し、速やかに対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は各入居者の薬の内容・目的・用法について理解し管理している。服用の際には入居者に直接手渡しをし、確実に服用して頂くための支援を行っている。また、薬の内容が変更された際は、その都度引き継ぎし、職員全員に周知徹底している。</p>	<p>薬の副作用については、一部のものについてしか注意を払っておらず、他の薬に関しても今後注意力を持って観察できるようにしていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>職員は、入居者に及ぼされる便秘による影響を理解し、排便の有無や状態の確認に努めている。便通を整えるために、水分や食事の摂取量の把握を行い、便通が悪い時には個々の入居者の主治医に相談し、指示をもらっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日、起床時と就寝前には必ず口腔ケアを行って頂けるよう、各入居者の状態に応じて支援している。また、口腔内の状況によっては訪問歯科を活用し、必要に応じて治療や指導を受けられるようにしている。</p>	<p>すべての利用者が、毎食後に口腔ケアを行えている状況ではないので、口腔ケアの必要性を理解して頂きながら援助を行う必要がある。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量をチェックし、毎回記録している。10:00、15:00にも水分補給をし、入居者の状況に応じて牛乳やお茶など、好みの飲み物を提供している。また、アレルギー等で食べられないメニューに対しては代替メニューの提供をしたり、嚥下や摂取状況により細かく刻んだりミキサーにするなど、食事形態を工夫している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に関する研修会に参加し、全職員に周知徹底している。普段から、外出後には職員・入居者共に、必ず手洗いと紅茶によるうがいを慣行。また、漂白剤を薄めた水で手すりやトイレの拭き掃除を行い、予防に努めている。また、室内に湿度・温度計を設置し、冬期間は加湿器を使用したり濡れタオルを活用し、換気の実施など、快適な湿度と温度を保つように努めている。</p> <p>その他、年に1回結核検診を受け、インフルエンザの予防接種については入居者・職員共に受けるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所はいつも清潔に使用できるようにし、汚れた場合は速やかに清掃しながら使用している。まな板や布巾など特に汚れの付きやすいものは漂白して使用している。また、新鮮な食材を提供できるよう、必要により冷蔵・冷凍し管理している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前の庭には花などを植え、鳥のえさ箱を設置し、小鳥がよく訪れている。また、ウサギを飼育しており、ベランダに設置している小屋には、近隣の方や学校の行き帰りに通る子供たちでにぎわうことが時折みられる。庭にはベンチを設け、入居者もうさぎや花を見に訪れている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>建物は採光などに配慮した造りとなっている。また、要所要所に季節感を感じさせる為の飾りつけや、カレンダー・日めくり・時計をつけたり、植物などを置き、各共有の空間には入居者が使いやすいような工夫を行っている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ダイニングに続いてソファで仕切ったりリビングや、ダイニングを戸で仕切った向こう側の階段前に椅子を置いている。また、喫煙場所も別にしており、その時々用途やシチュエーションに合わせて使い分けている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には出来る限りご本人にとってなじみの使い慣れているものを持ち込んでいただくようお願いしている。また、それが出来る限り利用できるよう、支援している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>室内に湿度・温度計を設置し、冬期間は加湿器を使用したり換気するなど、快適な湿度と温度を保つように努めている。また、定期的な換気口の掃除や加湿器の清掃を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 利用者様が家庭の延長として安心して生活出来る環境作りを目指し、職員は利用者様の要望を取り入れて、安心した介護に努めています。職員は三部門の委員会を作り、必ずどこかに所属しています。行事委員会では、季節の行事や誕生会、買い物ツアー等の毎回、嗜好を凝らした内容の行事の企画を担当しています。リハビリ委員会では、様々な体操の企画をし、職員へ指導を行ったり、レクリエーションで毎日唄う歌の選曲や歌詞カード作り等を担当しています。新聞委員会では、利用者の生活の様子や行事の様子、職員の情報などを記事にして、ご家族のもとへ定期的に届けています。